

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

## 事業名 都市農村交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,500 千円 (前年度予算額： 2,000 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
要求額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額									

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

テレワークなどの普及により人々のライフスタイルが変化し、田舎暮らしへの関心の高まりや農村での定住志向などの「田園回帰」の動きによる日本の農業や農村への魅力が再認識されている。岐阜県の農村地域へ興味をもってもらうきっかけとして、多様な地域資源を活かした農泊や都市農村交流（グリーンツーリズム）を推進し、農村の魅力を広く発信して、農村の関係・交流人口の増加を図る必要がある。

## (2) 事業内容

岐阜ならではの農林漁業体験や農泊など、農村地域の資源を活用した活動の推進や情報発信を行う。

## 【内容】

- ・ (一社) ぎふの田舎へいこう推進協議会と連携したグリーンツーリズムの推進
- ・ ぎふグリーンツーリズム専用サイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信

### (3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる協議会の活動と連携した施策であるため、県負担とする。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	440	職員旅費
需用費	60	事務用品購入費
役務費	60	郵送・通信費
委託料	900	WEBサーバー維持管理
使用料	30	会場借り上げ料
負担金	10	全国農泊シンポジウム参加費
合計	1,500	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）」

### (2) 後年度の財政負担

ぎふ農業活性化基本計画の計画期間であるR12まで実施する。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
「GIFU-DO農泊」 の年間延べ宿泊 者数	-	-	-	7万人	35万人	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年度	<p>○ Webサイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信により、サイト訪問者数、農林漁業体験者数ともに増加した。</p> <p>○ 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携した受入体制の支援を行い、推進協議会が実施する各種研修会やネットワーク大会等の開催を支援し、県内農林漁業体験実践者のレベルアップを図った。</p> <p>○ 「ぎふの田舎応援隊」の隊員を紹介するパンフレット「ヒトビトVol.3」を作成し、ボランティアをきっかけとした都市農村交流をPRした。</p>
	指標① 目標：300千人 実績：178千人 達成率：59.3%
令和 5 年度	<p>○ Webサイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信により、サイト訪問者数、農林漁業体験者数ともに増加した。</p> <p>○ 「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会と連携した受入体制の支援を行い、推進協議会が実施する各種研修会やネットワーク大会等の開催を支援し、県内農林漁業体験実践者のレベルアップを図った。</p> <p>○ 「農林漁業体験施設」をPRする動画を制作し、SNS等で情報発信することで農林漁業体験をきっかけとした都市農村交流をPRした。</p>
	指標① 目標：300千人 実績：267千人 達成率：89.0%
令和 6 年度	<p>○ Webサイト「ぎふの田舎へいこう！」による情報発信により、サイト訪問者数、農林漁業体験者数ともに増加した。</p> <p>○ （一社）ぎふの田舎へいこう推進協議会と連携した受入体制の支援を行い、推進協議会が実施する各種研修会やネットワーク大会等の開催を支援し、県内農林漁業体験実践者のレベルアップを図った。</p> <p>○ 「農林漁業体験施設」をPRする動画をSNS等で情報発信することで農林漁業体験をきっかけとした都市農村交流をPRした。</p>
	指標① 目標：300千人 実績：276千人 達成率：92.0%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>・持続可能な社会の実現のため、農村における社会・経済機能を維持するためにも都市農村交流の更なる推進が求められており、必要性は増している。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>コロナ禍を経て人の移動が活発になるなか、田園回帰志向の高まりも相まって、「ぎふの田舎へいこう！」のサイト訪問者数や農林漁業体験者数も過去最高を記録した。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>民間団体と連携してグリーンツーリズム推進の取組を効率的に実施している。</p>

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内のぎふグリーンツーリズムを推進するため、県内のグリーンツーリズムのとりまとめ団体である(一社)ぎふの田舎へいこう推進協議会の一層の体制強化を図る必要がある。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地方分散、田園回帰の大きな流れをつかむためにも継続すべき。各種施策を、関係部局や(一社)ぎふの田舎へいこう推進協議会と連携して取り組む。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>移住定住フェア【地域振興課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>・都市部からの移住希望者に対し、農村の魅力をPRすることで、農的関係人口の増加や、農村地域への移住を促進する。</p>